

都城県誕生 —近代都城の出発—

令和3(2021)年は、明治4(1871)年の廃藩置県および都城県設置から150年に当たります。
今回は、都城県置県150年を記念して、わずか1年2カ月ではあったものの存在した「都城県」を広く知ってもらおう特別展について、紹介します。 ◎問い合わせ 都城島津邸 ☎23-2116



桂 久武

明治の変革と廃藩置県

明治時代は、日本史上で最も大きな変革の時代です。江戸幕府が倒れるとともに、廃藩置県や廃刀令、秩禄処分などによって鎌倉時代から続いた武士の時代が終わりを告げ、憲法の制定や議会の設立、官僚による行政が行われるなど、近代化が大きく進んだ時代でした。

特に、維新政府は中央集権化を進めるため、藩政改革を実施。各藩多様であった支配制度を一律とし、廃藩置県を断行、藩を廃し県を置きました。さらには改置府県によって、県の参事(現在の知事)を政府が派遣する役人に変更しました。

このような時代の変革の中で、「都城県」が誕生。わずか1年2カ月という短い期間ではあったものの、都城の名を冠した県が存在しました。

見どころ

本特別展では、幕末以降の世の中の動きを見ながら「都城県」誕生の意義を明らかにしていきます。また、この大変革の時代に人々がどのような対処していたのかについても併せて紹介します。

特別展の概要

●会期 11月28日(日)まで

※月曜日は休館日

●観覧料 一般400円(300円)、高校生・大学生300円(200円)、中学生以下無料

※(一)内は20人以上の団体料金

※本宅は小学生以上110円

●主な展示史料

【麒麟鳳凰図屏風(鳳凰図)、麒麟鳳凰図屏風(麒麟図)】(都城島津邸所蔵)

これらの史料の箱書を見ると、嘉永6(1853)年12月、鹿児島(薩



麒麟鳳凰図屏風(鳳凰図)



麒麟鳳凰図屏風(麒麟図)

摩) 藩主島津斉彬の巡見の際に製作されたものであることが分かります。狩野派の影響を色濃く受け、各隻の大きさが異なることが特徴です。

【桂久武写真】(都城教育委員会所蔵)

天保元(1830)年、日置領主島津久風の第5子として生まれた久武は、桂久徴の養子となりました。その後、藩に出仕し、勘定奉行や大目付などの役職を経て、家老となっています。

明治2(1869)年には藩政改革を担うために参政職となり、翌年には大参事に任命され、西郷隆盛とともに藩政を掌握しました。そして、明治4(1871)年、久武は都城県参事に任命され、翌年に都城に着任しています。

講演会(無料)

「幕末維新期の薩摩藩と都城」をテーマに、大賀郁夫さん(宮崎公立大学教授) および 粉木郁朗さん(宮崎県西都原考古博物館館長) が講演します。

●日時 11月6日(土)

13時30分～16時

●場所 まちなか交流センター